

# 少年女子健闘の8位

## 新体操

▽総合(個人十団体)①静岡 ②徳島(選抜)③松坂 ④青 静岡は15年ぶりの度目の優勝。

(選抜)静岡、尖、鈴木、奈良、木山、宮本 28・9000点  
 岡、大野 32・8250点(個人) (個人)11・6500点、団体17・5250点  
 (鯖江市サンドーム福井) 13・5250点、団体19・3000点(250点)

## ノーマスで力出し切る

少年女子チームにとっては、予想外の8位入賞だった。団体の演技を終え、上位チームの状況からも入賞は難しいと思われていただけに、2年連続入賞の朗報に選手5人は「まさかと思っていたので」とうれし涙で喜びを分かち合った。

個人戦は4人がミスなく終えたが結果は12位。団体には「ミスなく演技をしよう」と話し合って臨んだ。前半最後の14番目に登場し、ハードロックに合わせ、ダイナミックな演技を繰り広げた。

ループを高々と投げ上げる交換を5回、10以上の技をノーマスで終えたが、この時点で個人戦との合計得点で6位。後半に個人戦上位チームが控えていたが、選手は「力を出し切れた。悔いはない」と話していただけに喜びもひとしおの様子。

県内ではライバル関係にある富岡西高と生光学園高の合同チーム。今団体に向け2日に一度のペースで練習を重ね、連帯を強めてきた。「このチームで団体に出られて本当に良かった」。賞状を持つ選手たちの顔は喜びに満ちあふれていた。

(石崎義典・写真も)



少年女子団体 総合で8位入賞した徳島の演技—鯖江市サンドーム福井